

# ミヤンマー経営者らが研修

## 延岡 MJC 経営塾の10人

ミヤンマーの日本人材開発センター(MJC)で日本式経営を学ぶ企業経営者ら10人がこのほど、延岡市で研修した。経営者らは同国で食品加工、飲料製造、建設業

などに携わっており、昨年11月から製造業に特化したMJCの人材育成プログラム「経営塾」を受講している。

今回の訪日は、実際にモノづくりの現場を視察



したり、日本企業とのネットワークを構築する狙い。首都圏での商談会に加え、ミヤンマーとの交流が進む延岡市での研修も日程に組み込まれた。

一行は、初日に旭化成展示センターで産業近代化の歴史や工都の成長の軌跡を学んだ後、2日目は清本鉄工と岸・蒲鉾冷蔵を視察。道の駅北川はゆまでは、のべおか道の駅の高木亨輔社長から人材育成や組織マネジメントをテーマとした講義を受けた。

また、延岡南中学校を訪問し、授業風景を見学したり、給食を共にするなど生徒と交流した。

同行した市工業振興課南中学校の生徒と交流するミヤンマーの企業経営者ら(市提供)

によると、参加者は日本式の組織管理や人材育成の方法に関心が高く、視察先では「従業員のモチベーションを高めるにはどうすればいいか」などと熱心に質問していたという。

延岡市とミヤンマーは、平成26年1月に同市の企業経営者が同国を訪ねたのを機に交流が始まった。民間の延岡・ミヤンマー友好会(清本英男会長)も発足し、MJCの研修生が同市でホームステイしたり、ミヤンマー第2の都市マンダレーに交流拠点「ノベオカフェ」がオープンするなど関係を深めている。